

13.09.00

JP 00/5459 日本国特許庁  
PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて  
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed  
with this Office.

出願年月日  
Date of Application:

10/049782  
1999年 8月17日

REC'D 03 OCT 2000

WIPO

PCT

出願番号  
Application Number:

平成11年特許願第267597号

出願人  
Applicant(s):

参天製薬株式会社

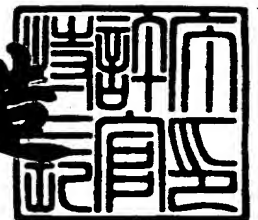
PRIORITY  
DOCUMENT

SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

2000年 9月 1日

特許庁長官  
Commissioner,  
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2000-3069725

【書類名】 特許願

【整理番号】 P62874-110

【提出日】 平成11年 8月17日

【あて先】 特許庁長官 伊佐山 建志 殿

【発明者】

【住所又は居所】 愛知県一宮市三ツ井五丁目 1 5 番 1 8 号株式会社岩田レ  
ーベル内

【氏名】 石原 勝昌

【発明者】

【住所又は居所】 愛知県一宮市三ツ井五丁目 1 5 番 1 8 号株式会社岩田レ  
ーベル内

【氏名】 船橋 英治

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府大阪市東淀川区下新庄三丁目 9 番 1 9 号参天製薬  
株式会社内

【氏名】 河嶋 洋一

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府大阪市東淀川区下新庄三丁目 9 番 1 9 号参天製薬  
株式会社内

【氏名】 富山 順一

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府大阪市東淀川区下新庄三丁目 9 番 1 9 号参天製薬  
株式会社内

【氏名】 伊達 正之

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府大阪市東淀川区下新庄三丁目 9 番 1 9 号参天製薬  
株式会社内

【氏名】 山中 規久子

【特許出願人】

【識別番号】 000177634

【氏名又は名称】 参天製薬株式会社

【代表者】 森田 隆和

【代理人】

【識別番号】 100074387

【住所又は居所】 東京都中野区中野2丁目14番20号エクセレント中野  
101号

【弁理士】

【氏名又は名称】 松永 善蔵

【電話番号】 03(3229)9057

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【物件名】 納付済証 1

【書類名】 明細書

【発明の名称】 ラベル

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 容器のキャップ部上方に位置するつまみ部から、容器キャップ部と胴部の境界に位置する横ミシン線までに向かって、螺旋状のミシン線を施し、つまみを持って回転させながら開封する手段を具備した包装材。

【請求項 2】 容器胴部とキャップ部の境界に位置する横ミシン線と、横ミシン線の切れていない部位から V 字型の形状で始まり、開封方向に斜め上方に伸びて天面のつまみ部の左下まで達する第二ミシン線からなる開封手段を具備したラベル。

【請求項 3】 請求項 1、又は、請求項 2、いずれかに記載の熱収縮性粘着剤付きラベル。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、点眼薬容器などに表示と封印を目的とした包装材としての、印刷されたラベルおよび熱収縮性粘着剤付きラベルに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 この種の容器における包装ラベルにおいて、横ミシン線は胴部肩口より上にあると、使用時に液だれした液や、ごみをその間隙に貯めることになり不衛生なので、胴部に位置することが望ましいとされており、その場合、開封後の複数回の使用に際して、キャップ下部にミシン線で切断されたフィルム部が露呈して使用者に違和感がある。そのためにキャップ部のフィルムは、開封後に簡単に取り除くことが出来ることが望ましいとされている。

【0003】

シュリンクスリーピングラベルは枚葉にしる、ロール状に加工したものにしる、一旦筒状に加工した後に二つ折りにして仕上げられるために、ミシン線やカット線は、二つ折りになった一方と他方を貫通する形で施すこととなり、従ってその形状は円筒形に装着した場合には左右対称となるものに限定されることとなる

。従って縦方向にミシン線を入れてキャップ部のラベル部分を切り開き、残りのフィルム片を横ミシン線に沿って剥がした後に、キャップを回して開栓するという3動作を要していた。また熱収縮性粘着剤付きラベルは、上記と同様の方法が、又は横ミシン線のみをキャップを回転させて開封して、キャップ部に残存するラベル片を、露呈した部分をつまんで強引に破り取るか、カッター等で切り取っていた。

## 【0004】

現在、市場には上記2種の方法で開封する容器が存在しており、使用者は、最初に経験したもの、又は、自分の感性に合ったもので開封を試みるために、どちらの方法もどちらかの使用者に不便を感じさせている。特に熱収縮性粘着剤付きラベルの場合の横ミシン線のみの方は不満が大きい現状にある。また横ミシン線のみを開封方法の場合は、開封して後に、キャップを締めて、元に戻すと一目では開封の痕跡が判別できないので、改ざん防止の観点からも好ましくない。ここで医療用に供される小型の点眼薬容器等は、通常1本ずつがカートンに収納されるのではなく、複数本が収納されているので、1本ずつの未使用性の確保と、容易な判別性が望まれている。

## 【0005】

【発明が解決しようとする課題】この発明は、使用者がつまみを持って開封しようとするれば、ワンタッチでスムーズにフィルムを除去出来、またキャップをいきなり回して開封しても、同時にフィルムの除去も可能となる。又いきなりキャップを回して開封しても、必ず三角状に開封の痕跡が生じ、一目でそれが判別出来、改ざんを防止することも出来るところの、点眼薬などの表示兼封印ラベルを得ることを目的とする。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】たとえば容器の胴部とキャップ部の境界に位置する横ミシン線と、横ミシン線の切れていない部分からV字型の形状で始まり、開封方向に斜め上方に伸びて天面のつまみ部の左下まで達する第二ミシン線からなる開封手段を具備した熱収縮性粘着剤付きラベルの構成とする。

## 【0007】

【発明の実施の形態】図1（イ）は、この発明のラベル（A）の展開して示す図であり、裏面の任意の部分に粘着剤などが塗布されている。このラベル（A）には、図3に示す容器（B）の胴部（b）とキャップ部（C）の境界に位置する横ミシン線（1）と、図1（ロ）に示す横ミシン線（1）の交点（1'）からV字型の形状（f）で始まり、開封方向に斜め上方に伸びて、天面のつまみ部（2）の左下まで達する第二ミシン線（1a）が施されている。図2は他の実施例のラベル（A'）で、2本の第二ミシン線（1a'）、（1a''）が施されており、容器（B）に貼り付けると、これらの第二ミシン線（1a'）、（1a''）は重なり1本状となる。

【0008】

図3（イ）に示すように、容器（B）に貼り付けたラベル（A）は、図3（ロ）のようにキャップ部（C）を回すことによって開封されるが、ここで図1（ハ）に示すような状態に、横ミシン線（1）と斜めの第二ミシン線（1a）が施されている場合は、回転が始まると同時に横ミシン線（1）は切れるが、第二ミシン線（1a）は熱収縮してキャップ部に緊張した状態で密着しているために切れることはない。ところが図1（ロ）に示すように、第二ミシン線（1a）に続くV字型の形状（f）が施されることで、回転が始まった時にV字型の形状（f）のもたらす緩衝効果により、交点（1'）と不切部（1''）は切れずに、回転方向（d）に追従するために、第二不切部（g）が切れて、さらにキャップ部（C）は回転しながら上昇するので交点（1'）および不切部（1''）が第二ミシン線（1a）を左内部に巻き込みながら、下方に引っ張ることとなるために第二ミシン線（1a）は上方に向かって連続的に切れていくこととなる。またカットされた三角形部分（e）は内部に巻き込まれているために、開封の痕跡が歴然とすると同時に、巻き込まれた部分は容易に修復できないので、開封の痕跡が残らないように故意に再封されることも出来なくなる。なお交点（1'）、不切部（1''）が必ず切れないで第二不切部（g）が必ず切れるように、V字型の形状（f）の角度は120～160度、且つ切れていない部分である交点（1'）は、第二不切部（g）に対して1～1.3倍の長さとし、逆に第二ミシン線（1a）の切れている部分の長さは、横ミシン線（1）の切れている部分の長さに対して1

、2～1.6倍にしておくことが望ましいことが実験の結果、判明している。

【0009】

【発明の効果】

使用者が、つまみ(2)を持って開封しようとするとき、ワンタッチでスムーズにラベルすなわち包装フィルムを除去出来、またキャップ部(C)をいきなり回して開封しようとするれば、同時にこのフィルムの除去も可能である。又いきなりキャップを回転して開封しても、三角状の巻き込み痕跡が必ず残り、一目でそれが判別出来、修復が出来ないことから改ざん防止に役立つものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明のラベル展開表面図と、横ミシン線と第二ミシン線との交叉状態を示す図。

【図2】この発明のラベルの他の実施例の展開表面図。

【図3】この発明のラベルを容器に施した場合と、開封した状態を示す説明図。

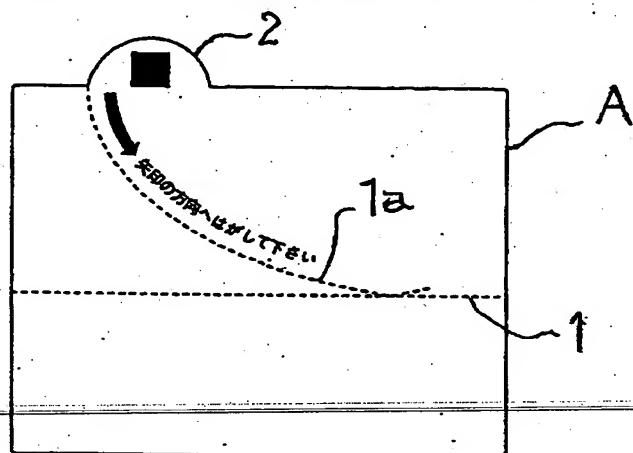
【符号の説明】

(A)、(A')	ラベル
(B)	容器
(C)	キャップ部
(b)	容器胴部
(1)	横ミシン線
(2)	つまみ
(1a)	第二ミシン線
(f)	V字型の形状
(1')	交点

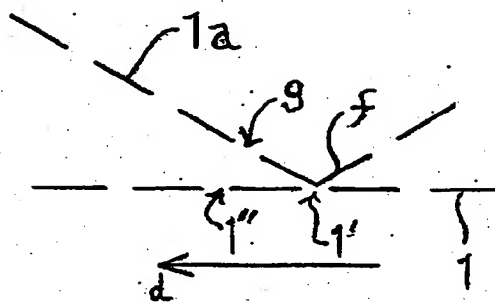
【書類名】 図面

【図 1】

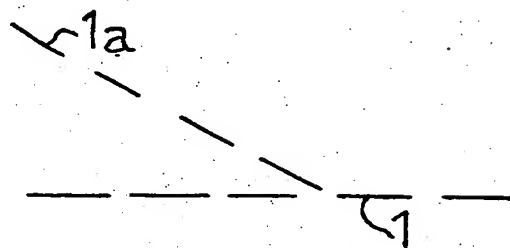
(イ)



(ロ)

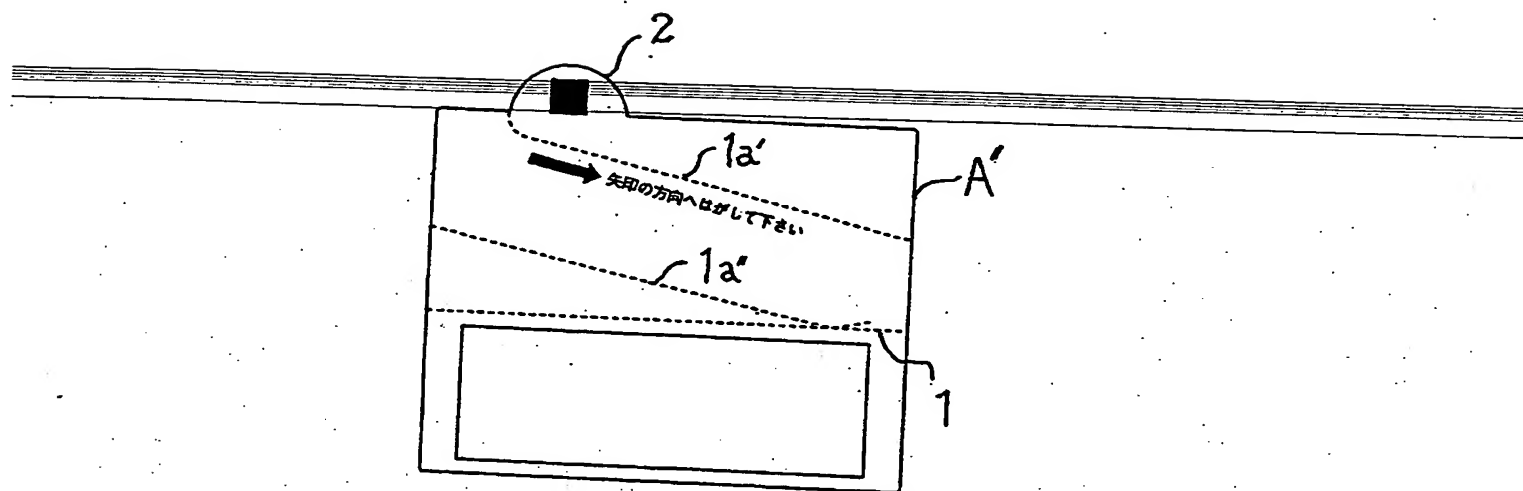


(ハ)

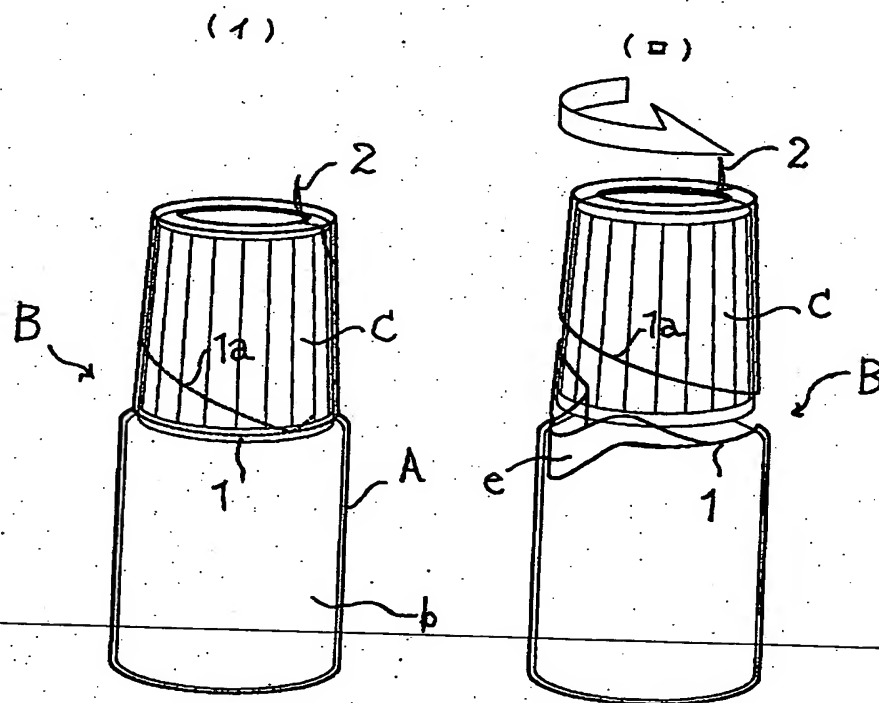




【図2】



【図3】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 使用者がつまみを持って開封しようとするとき、ワンタッチでスムーズにフィルムを除去出来、またキャップをいきなり回して開封しても、同時にフィルムの除去も可能となる。又いきなりキャップを回して開封しても、必ず三角状に開封の痕跡が生じ、一目でそれが判別でき、改ざんを防止することも出来る  
ところの、点眼薬容器などの表示兼封印ラベルを提供する。

【解決手段】 容器の胴部とキャップ部の境界に位置する横ミシン線と、横ミシン線の切れていない部分からV字型の形状で始まり、開封方向に斜め上方に伸びて天面のつまみ部の左下まで達する第二ミシン線からなる開封手段を具備した熱収縮性粘着剤付きラベルの構成とする。

【選択図】 図1

29915600057

納付済証貼付欄

書類名 特許願

整理番号 P62874-110

納付済証(特許庁提出用)(国庫金)

11	0655	6135	00070538	1320010028
010	37306	99000023670	100074387	
1	010			

納付金額 10,000円

※(国庫金)の場合、納付済証を提出する。納付済証を提出しない場合は、納付済証を提出しない。

(住所)

103  
東京都中野区中野2丁目14番20号 エフ  
ゼン1中野101号

(氏名)

松本 新彦

納付場所

8-25942 05-1246

×201000

納付済証(特許庁提出用)

納付済証(特許庁提出用)

納付済証(特許庁提出用)

(納付済証)



※この納付済証(特許庁提出用)を、当領書提出と共に特許庁に提出すること。

特平11-26759

認定・付加情報

特許出願の番号	平成11年 特許願 第267597号
受付番号	29915600057
書類名	特許願
担当官	第三担当上席 0092
作成日	平成11年10月 7日

<認定情報・付加情報>

【提出された物件の記事】

【提出物件名】 納付済証 1

次頁無

出 願 人 履 歴 情 報

---

---

識別番号 [000177634]

1. 変更年月日 1990年 8月 6日

[変更理由] 新規登録

住 所 大阪府大阪市東淀川区下新庄3丁目9番19号

氏 名 参天製薬株式会社

---

---

**THIS PAGE BLANK (USPTO)**